

酒々井町郷土研究会々報

第56号

平成2年4月1日

発行 酒々井町郷土研究会
編集 部

佐倉藩年寄部屋日記抄(一)

相京 晴次

大般若供養

「佐倉藩年寄部屋日記」は佐倉厚生園所蔵の寛延二年(一八六九)から明治二年までの一〇〇余年間、二〇〇余冊の歴大な日記中から、寛延二年一月一週三年六月までの一か半年の日記三冊を、県史編さん室が解説発行したものであります。

この書は佐倉藩内で生じた様々な事柄、寺院の消長・信仰・火災・水難・山崩れ・祭礼・野馬捕り・鹿狩・等々、村々の動静が記載されている貴重な史料であります。

酒々井町に關係のある記載も六〇余か所あります。そのうちから興味のある事項について数回にわけて順次記してみましよう。



大般若とは「大般若波羅蜜多」の略称で、民間ではお大般若と言っているようです。

古来国家鎮護のため、奈良の東大寺・薬師寺などで盛んに行われた供養で、佐倉藩でも年中行事として毎年一月、五月、九月に実施されておりました。

寛延二年一月七日の記載に「一、今朝、御本丸に於て大般若御執行に付き前々の通り御手当申付け候、尤も出家中例の通り出られ候」

導師 酒々井町 東光寺
大佐倉村 宝珠院
下岩橋村 大仏頂寺
本佐倉村 文殊寺
同 村 吉祥寺

右之外拾ヶ寺前格之通り罷



出候 右に付き相詰候面々
左之通り
熨斗目麻上下着 御名代 大
目垣九郎太夫(以下藩士二〇
名省略)

右滞り無相済候段 森村助左衛門、佐野新右衛門、田村恒右衛門届 主計宅江罷越申述候

この大般若供養は佐倉藩としては可成大きな行事らしく、前日の六日にもその準備についての記載があります。

導師となった東光寺及び大仏頂寺・文殊寺・吉祥寺・宝珠院は中世千葉氏時代から佐倉五か寺として知られた寺院であります。

旧藩時代はすべて前例に従って諸行事が行われておりますので、大般若供養も以後ずっとこの五か寺が交替で導師を勤めております。

佐倉藩の大般若供養は正月、五月、九月の年三回ずっと続けられていたと伝えられています。右に關連して、大般若供養は民間ではどのようなして傳承されてきたか記してみましよう。

大佐倉地区と中川地区にその

古い習慣が残されておりました。大佐倉地区は昭和五五年ごろまで、中川地区は昭和三〇年ごろまで続きましたが、今はどちらも廃されているようです。

宝珠院は佐倉五か寺の一つで佐倉藩の大般若には必ず奉仕していたことは前記の通りであります。この宝珠院に、二〇〇巻入り木箱三個計六〇〇巻が現在も所蔵されております。

大般若供養当日は、このうち二〇〇巻入り箱一個を小型の長持に入れて二人でかついで地区内を廻ったと伝えられております。

大佐倉地区は一月二三日、中川地区は一月一九日に施行されました。(次頁につづく)



宝珠院は大正七年から約五〇余年無住時代があり、この間、大般若経は檀家惣代、藤崎善兵衛家の土蔵に預けられており、中川地区の場合、供養当日、藤崎家から長持と大般若経を借用して帰り、二人でかついで村中を廻って供養をうけたと伝えられております。

長持が廻ってくる各々家では長持の下をくぐって賽銭を供えたといわれ、下をくぐることによって災難を免れ、功德をうけるといふ信仰によるものと伝えられております。

現在はこの大般若供養も忘れられつつありますが、個人による般若心経の信仰となり、写経が盛んに行われておるようです。(この項については飯田・慈眼寺桜井照清師のご教示をうけました。)



平成元年度事業報告書

事業名	説明	期日	参加人数
1 町内史跡めぐりハイキング		6/8(日) JR酒々井駅中央台口—上岩橋・長福寺(原宿足元寺)「本懐阿弥陀如来堂」本懐阿弥陀如来像「多聞堂」—伊藤・松崎寺(阿弥陀如来像) —浄泉寺(真經十一面觀音)昼食—下岩橋・岩橋1成跡—宗成宗本寺馬頭観音殿	28名
2 見学会	県外	4/9(水) 県外 足利・大田方面 酒々井中央公民館—早川農園—足利学校—護国寺—大門基屋(湯水)—監査工庫—鶴足寺—太田市・大光院(居籠さま)—酒々井	87名
	県内	7/18(土) 7/21(金) 県内 千葉市内 酒々井中央公民館—千葉県立中央博物館—千葉市都市緑化植物園—千葉寺—加賀利貝塚—酒々井	75名
	県内	12/7(水) 12/8(金) 県内 芝山方面 酒々井中央公民館—取巻牧場—殿塚—姫塚—芝山仁王堂・はにか博物館・芝山公園—航空科学博物館—酒々井	76名
	一泊	10/24(土)~10/25(水) 一泊 妙義山・磯部温泉方面 酒々井中央公民館—甘菜町・小幡城下の町並—崇福寺—高岡製糸場—高岡貫前神社—磯部温泉② 磯部温泉—妙義山—妙義神社—中一岳神社—下仁田・清泉寺—酒々井	53名
3 史談会	(おむね会共催) 10	3/4(土) 3/11(土) 4/8(土) 4/15(土) 4/22(土) 4/29(土) 7/15(土) 8/9(土) 10/14(土) 11/18(土) 12/19(土)	150名
4 野草の会(15) 名勝探訪(10)	野草の会	3/3(金) ひら祭りの集い (89名) 4/27(土) 山菜と食べる会 (57名) 12/6(金) 野草観察 市川市大町 (38名) 酒々井中央公民館—市川万葉植物園—大町自然観察園—市川植物園—酒々井	184名
	鳥獣探訪	1/18(水) 始捕(22名) 3/15(水) 船橋(28名) 5/10(水) 飯山(20名) 6/6(水) 鎌倉野(20名) 7/5(水) 谷津・草津(22名) 7/16(水) 千葉(28名) 11/8(水) 長作、武石、横見川、稲毛(22名) 12/3(水) 歸田台、米本、利上、大和田(25名)	187名
5 郷土史講座		8/20(日) 高橋三千男先生(元酒々井中央公民館長) 演題「本村倉城と居籠様」	63名
6 史跡文化財愛護活動		4/16(日) 上岩橋見層、カンカン口横穴群草刈り 伊藤松並木清掃 (38名)	67名
		7/15(日) 上岩橋見層、カンカン口横穴群草刈り 伊藤松並木清掃 (27名)	
7 会報発行		年4回発行 1/1, 4/1, 7/1, 10/1 編集委員会 2/6, 2/15, 5/1, 5/11, 8/1, 9/12, 11/1, 11/11 全報者連 3/30, 6/9, 1/13, 12/27	128名
8 運営委員会		年5回 1/11(22名) 3/15(28名) 6/17(23名) 9/5(27名) 12/17(30名)	130名
9 町内史跡めぐりハイキング文化講演会		11/1(日) 福田豊彦先生 国史館史跡博物館長 演題「千葉氏の成立と印旛地方」	81名
10 総会		1/29(日) 第13回定期総会 終了後ビデオ観賞	97名

延べ参加人数 1,468名

平成2年度総会報告

平成二年一月二十八日 午後一時三十分、公民館の講堂において、平成二年度定期総会が開催されました。

ご多用中にもかかわらず、福田助役のご出席をいただき、出席者百十二名、会長挨拶、福田助役のご挨拶を賜わり、議長には福田豊吉氏が決まり、議事は次の通り審議されました。

平成元年度事業報告、会計報告、監査報告及び平成二年度事業計画案及び予算案が承認されました。総会終了後、「ビデオ」で「酒々井の民話」及び「房総五百選」酒々井を觀賞しました。底冷えに少しでも暖がとれればと甘酒を用意し、出席者に喜んでいただきました。

平成2年度事業計画

事業名	説明
1 町内史跡めぐりハイキング	年1回 教育委員会と共催
2 見学会	県内 年2回
	県外 年1回
	一泊 年1回
3 史談会	年10回
4 野草の会 名勝探訪	野草の会 年4回 七草粥と食べる会 2月 山菜と食べる会 4月 野草の観察 2回
	名勝探訪 年7回 (1:1(雨天中止))
5 郷土史講座	年1回 教育委員会と共催
6 史跡文化財愛護活動	町内史跡文化財愛護活動 数回
7 会報発行	年4回 1月、4月、7月、10月
8 運営委員会	年5回 定例会議(4期ごとの行事計画)
9 総会	1月28日(日) 第14回定期総会

伊篠の観音講

宮田 きん

郷土研創立以来、会長さん初め役員方の御努力御指導で会の発展は目ざましいものがありま

東海道を思わせるようなあの伊篠の松並木 昭和の初期には松と杉で六十一本もありました

寺といふ清らかな立派なお寺があります。その境内に私達信仰の観音堂があります。堂の中

座していません。表の扉の面わきには仁王様です。昔はこの反対側に畳敷きのお堂があり、荒れ

初めの頃は年一回でした。五十年頃から正、五、九月に開扉。今では毎月十八日の行事として

諸々の御願い事の御利益もあらたか。お参りした次の日安産したとか、永く子宮に恵まれ

等々で一同喜び合って居ります。読経の御指導は方丈様から頂き、色々お寺さんのお世話にな

り室町時代の観音様だったそうです。寺には此の他、具也町指定の文化財があり、私達檀家の誇



伊篠 浄泉寺 正観音立像

鎌倉時代の様式を模してはいますが、室町時代の作と推定されます。

昭和47年頃の伊篠の松並木。存りし日の成田道が想はれます。



在りし日の伊篠の松並木 (昭和47年頃)

七草粥寸文記

三月二十二日、今朝は降り続いた雨も上り、幸先しと許りはいきりました。七草の一穂(ほとけのこ)が採

いつまでも残るもの

永田光哉

「あなたには愛情のかけらもないのねカ」

淋しくなりかけた髪を撫でていていたわたしの背中に愚妻の一声……

「馬鹿なことを言うなよ君ッ!! 誰のために一生懸命仕事をしていると思ってるんだ。君のためだろうがー」と一喝。

我が家では時々、こうしてお互いの闘争心をかきたてている。ある種のゲームなのです。しかし、ゲームの最中はお互いに真剣です。怒りに燃え、憎悪に満ちたその目は冷たくギラつき、高慢で自己中心の塊のようです。百年の恋も一パンに冷めてしまふ有様です。鏡に映る己が顔をみると、余りの醜さに何とも情けなく、これが二十年前、「僕についてくるかい。いいんだね」

と、言っただけで一時も離れたくない程熱く燃えた二人なのかと……。それにしても、あの時の「愛？」

は一体どこに消えてしまったのか……。ふと、そんな昔を思い出しながら顔を拭いていると、聖書のある章が頭に浮かんだ。「愛の章」という有名なところだ。聖書は語っています。「たとい、私が持っているものの全部を貧しい人たちに分け与え、また私の中からだを焼かれるために渡しても、愛がなければ何の役にも立ちません。愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。愛は決して絶えることがありません。」そして、「愛を追い求めなさい」と。「絶えることなく、いつまでも残るものは愛



みみ泉のように休んでみませんか。お仲間におつきなさい。あなたもどうぞ。

だ」と……。ああ、こんな本物の愛を見つけることができたらどんなにすばらしいだろう……。私もこの世に生ある内にひとつでもいいから本当の愛を見つけよう。みなさんも、一緒に愛のかけらを見つけませんか。

〔名勝探訪〕

佐倉道を歩くの記

三月十四日(木) No.19



前日まで吹き荒れた春の嵐もおさまり、寒くもなく、暑くもなく、歩くには最適の好天に恵まれ、参加者二十九名、京成酒々井駅を出发、ユーカリが丘駅でモノレールに乗り換える。車内は郷土研専用で、話し声もはすみ、楽しい佐倉道を歩く一歩となる。中学校駅で下車、青菅の称念寺で「大むくろじ」を見学。無愛想な住職さんに長居は無用と先崎の地藏さんに行く。地藏さんと相京顧問の説明を聞く。野草に詳しい亀井さんが、七草の「ほとけのざ(こぶにたぐり)」を見つけられ一同野草の勉強、まさに探訪の醍醐味だ。次に、鷲神社を訪れる。鳥居の前で青木喜作氏の説明に耳を傾ける。折から本殿修復中で居合わせた地元の方や、宮大工さんに色々質問、納得。立派な本殿の彫刻や、修復中の為には拝殿に安置された厨子の立派さに感動させられた。下車した中学校駅までもどり、結構な道程にのどの渇きを覚え水道水で潤す。公園駅で下車、ユーカリが丘団地の中を通り抜け、小竹城跡に行き、土塁空堀を見学。二九六号線に出る。空腹に歩く足も重くなるが、やっと、食事処「とんでん」で一同満腹する。ユーカリが丘駅より志津駅に着き、二九六号線を歩き井野にある「成田道標」と「加賀清水」を見る。志津駅前分岐点でレキユラーコース終了。十九名が特別コース。志津城跡、天御中主神社に参拝、本日の見学終了。「疲れましたね」と言いながら楽しくよく歩きました。

見学案内

町内史跡めぐりハイキング 6/10(日)

今回は酒々井・本佐倉地区の寺院を中心として見学します。

◇東光寺は真言宗で佐倉五か寺の一つ。本堂は明治三二年、酒々井町誕生、第一回の町会議場となった歴史があります。町文化財・大日如来供養塔、正徳元年(一七一七)の庚申塔の二つがあり、江戸末期の寺子屋の師匠、高幡南溪の墓もあります。

◇経胤寺は顯本法華宗の古刹で、町文化財の本堂は江戸中期の建築で均整のとれた美しさであり、本堂前の巨石供養塔、宝篋印塔五基は壮観です。境内には俳人原田虎月の墓、歌人押尾孝の墓、寺小屋師匠林田泰次郎の墓があります。◇清光寺は浄土宗で、徳川家康の父広忠公の齒骨墓があるために、御朱印五〇石をうけていた名刹で、県指定文化財、銅造阿彌陀如来及両脇侍立像があり、また明治初期の寺子屋師匠石井平兵衛の墓があります。

ます。

◇吉祥寺は真言宗で佐倉五か寺の一つで、町の文化財の木造十一面観音があります。また明治時代の民俗資料絵馬百数十枚、本堂前には魔三郎石があります。

◇勝蔵院は真言宗吉祥寺末寺で現在は無住ですが、本堂と本尊の不動明王坐像は町文化財の指定をうけております。

相京記

◎青葉清々しい季節、自然と町の歴史にふれながら楽しく歩きまわす。親子や孫や友人と一緒にご参加下さい。

雨天中止・代替日 6/7(日)

県外見学会 4/8(水)

埼玉県比企郡吉見町・小川町方面

吉見観音(岩殿山・安楽寺)

真言宗智山派、本尊聖観音、坂東三十三カ所十一番札所。約千三百年前、行基が創建した古刹。江戸時代初期建造の本堂と明暦二年(一六五六)僧栄鏡の建立した三重塔は昭和三十三年に修理され、朱色に塗られ美しい。本堂の内陣の柱には極彩色が施され、欄間の虎の彫刻は甚五郎の作と伝えられている。又源範頼が稚児僧として居留した。

吉見百穴

凝灰岩の丘陵にある古墳時代後期の横穴古墳群。国指定史跡区域内にけでも二一九個。各穴は玄室、羨道、前庭からなり、玄室は三メートルほどの大きさ。一部の穴の中には珍しい天然記念物のヒカリゴケが自生し、緑色のコケが黄色にかがやいて美しい。

忠七めし(割烹旅館「三葉本店」)

日本五大名飯「忠七めし」として有名。由来は小川町駅前にある割烹旅館「三葉本店」の八代目店主忠七が、この地を知行する山崎屋毎居士に「調味に禅味を盛れ」と示唆され、苦心の末に創り上げたもので、風味と清澄を合致したものです。津和野町のうすめめし、深川の深川めし、岐阜のさよりめし、大阪のかせくめし、小川の忠七めしが五大名飯といわれています。

手すき和紙見学(手すき体験)

古くは武蔵野紙と呼ばれ、小川付近に移住した高麗人たちによってその製造法が伝えられたという。櫛川の水が紙の原料のノウハウをさらすのに適したため発達した産業で歴史は古く、正倉院文書では、宝亀五年(七七四)武蔵野紙を納めた記録がある。小川紙を代表して細川紙と呼ばれて

お知らせ

和紙センターで手すき和紙を希望者のみ体験していただき、ます。実費二百五十円は個人負担。

昭和六十二年一月十八日(水)から始まった名勝探訪「佐倉道を歩く」会がこの六月十三日(水)で終了します。終了式・砂松を?所で実施しますので多数御参加下さい。次回、七月以降からの「名勝探訪」は、東京都内の名勝探訪を予定しています。御希望の所がありましたら、会長宅(九六一四八六一)までお知らせ下さい。企画の参考にさせていただきます。ますのでよろしく願います。

会計報告

七草粥を食べる会

収入 500 X 86 = 43,000

支出

材料費

総額 45,224

△ 2,224

不足分 2,224円を

郷土研より補足

郷土研日誌		4/2, 10-24
日付	内容	参加人数
1/21	運営委員会	19名
1/28	平成2年若14回定期総会	112名
3/6	史談会「古今伝舎真佐子」と読書会	10名
3/10	七草粥、郡土委員会	10名
3/11	編集委員会	7名
3/22	「七草粥」を食べる会	26名
3/30	史談会「古今伝舎真佐子」と読書会	15名
3/31	運営委員会	29名
3/31	佐倉道と歩く (NO.19)	29名

郷土研 行 事 案 内

平成2年4月~6月

	4 月	5 月	6 月
史談会	14日(土) 午後1時30分 「古今佐倉真佐子」を読む会 中央公民館	12日(土) 午後1時 「古今佐倉真佐子」を読む会 (現地学習) 中央公民館 (雨天室内)	9日(土) 午後1時30分 「古今佐倉真佐子」を読む会 中央公民館
名勝探訪 野草の会	26日(木) 午前11時30分 山菜を食べる会 会費 500円 申込受付 4月6日(金) 午前9時 受付場所 公民館ロビ 午前11時 定員 80名 キャンセル 前日まで 会長宅 76-4261	9日(水) 京成酒々井駅 9:09 出発 佐倉道を歩く(20) 京成酒々井駅-白井駅-雷電為右衛門墓 菅電碑-太田図書館-白井城跡-天満 宮-八幡神社-川口宗重墓-円応寺 -阿多津の石碑-明治石碑-長源寺 -謙信一夜城碑-白井駅 (雨天中止)	13日(水) 京成酒々井駅 9:09 出発 佐倉道を歩く(21) 京成酒々井駅-白井駅-成田道標-光勝 寺-一里塚跡-江原利場跡-江原新田 -印南小学校跡-角来八幡神社-馬頭 観音-鹿島園又は菖蒲園で砂払い (雨天中止)
史跡文化財 愛護活動	4月15日(日) 午前9時 現地集合 ・2ヶ所とも午前9時作業開始 ・都合のよい現場にご協力をお願い致します。 (雨天中止) 代替日 4月22日(日)	第1現場 - 上岩橋貝層・カンカン口横穴群草刈り 第2現場 - 伊藤松並木 保護清掃 (かまくら等持参)	
県外 見学会	4月18日(水) 出発時間-伊藤(6:15)・農協がリンスン5号添(6:20) 快台日菜外-ニグ(6:25) 公民館(6:30) 出発 申込受付日・場所-4月6日(金) 9時~11時 公民館ロビ (手紙和紙の 体験もします) 会費-5,000円 定員-45名 キャンセル-実施日5日前までに会務棟宅()までご連絡下さい。	埼玉県 吉見町・小川町方面 コース 酒々井公民館(6:30 出発)-吉見観音 (安樂寺・坂東11番札所)-吉見百石- 小川町(二葉)忠とめ昼食-小川和 紙センター-酒々井町(19:00 頃)	
町内 史跡めぐり (教育委員会共催)	6月10日(日) (集合時間) 午前9時 出発 (集合場所) 中央公民館 (持ち物) 弁当・飲み物 雨天中止・代替日 6月17日(日)	町内史跡めぐりハイキング(上本佐倉・根も谷方面) コース 中央公民館(9:00 出発)-東光寺-下白麻賀多神社-経胤寺 -上本佐倉神明神社-清光寺-隣保館(昼食)-吉祥寺-根も 谷の石仏(双体道祖神・弁財天)-上岩橋貝層-勝蔵院 (解散)	
NHKビデオ 「昭和の歴史」観る集い	5月16日(水) 午後1時30分 中央公民館 視聴覚室 「昭和の歴史」 NHKビデオを約2時間観賞します。(休憩時間10分含みます)		

名勝探訪

No.20 5/9(水) No.21 6/3(水)

佐倉道を歩く

五月九日(水)

一月予定の志津地区探訪は大雪のため中止となり、三月に実施となり、三月予定の白井地区探訪は五月九日に変更となりました。

白井駅下車、雷電為右衛門の墓、同碑、太田凶書の墓、白井城本丸跡、八幡神社、川口宗重の墓、円応寺、阿多津の墓、長源寺、上杉謙信一夜城跡碑を訪ねます。白井城は本佐倉城の支城で、戦国時代は本佐倉城の前線基地として上杉謙信や太田道灌とも戦って、勝ったり敗れたりしております。前記の場所は一日見学コースとして選んだものです。時間の余裕があれば、この外に白井城の外郭めぐり、近江八景を模してつづいた白井八景めぐりなどもあります。当日は臨機応変で実施します。

六月十三日(水)

最終予定の白井、江原、鹿島橋コースは別記の通りで説明を省略しますが、五月九日の白井地区見学と合わせて、白井八景の撰文の鑑賞を兼ねて実施し、鹿島橋着と同時に終了式(砂払い?)を行いたいと思っておりますので、多数の参加をお願いします。

相京記

編集後記

鶯の初音に誘われて屋外に出ました。水仙がゆれていました。白木蓮の蕾が北むきに頭をそろえている姿に、どうしてかいつもなやんだりしています。まさに春の本番、四月の山菜の会まで、足踏みして待って、欲しています。花粉症の方々も、もう一息です。健康第一、どうぞお元気で皆様様の御参加をお願いいたします。

